



なお知らせ!

みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日

いち早く開催 **手話通訳Ⅲ-ジャンプ使用** 全 11 講座

観察・事例検討・ロールプレー・通訳実習

平成 29 年 1 月に全国研修センターから発行された「手話通訳Ⅲ-ジャンプ」を使用した講座を、他県に先がけて行いました。担当講師(聴講師)がモニタリング研修で学び、新テキストの趣旨を理解するとともに、受講生が手話通訳者としての姿勢を学べるように次の点に留意しました。

- ・手話通訳者の役割は、手話技術はもとより知識、倫理、ソーシャルワーク等幅広いものとなってきていること。
- ・テキストの中身は現場(派遣)を経験する前に必要な学習が多く含まれているため、その大切な内容を派遣経験のない受講生にわかってもらう展開の工夫が求められること。

講座は、平成 29 年 8 月 27 日から全 11 講座(22 時間)行いました。



テキストに準じながら、「通訳のやり方・あり方」の基本を意識できるように第 1 講座、第 2 講座で 6 時間を費やしました。これは、この講座で学ぶべきことをしっかり理解し、講座を重ねるごとに、ロールプレー、観察、実習を通し「やり方・あり方」を自然に考えられるような学習に結び付けました。

観察の場面は、先輩通訳者らが通訳する講演会を事前学習で学んだ観察視点で観察を行い、PP の活かし方、会場の物理的な環境、通訳交代のタイミングなどを観察後に意見を出し合いました。

現場実習は 3 場面(講演会、会議、面接)とも模擬場面を設定し、通訳者のジレンマを体感しながら各々が自分ののできるレベルで必死に通訳を行いました。観察者、通訳者となったり、学習をとおしてそれぞれが課題、気づき、良かったところがみえ、通訳者に課せられる責任を体験できる学習となりました。



受講生のうち 6 名が修了しました。主な感想としてろう講師からは、「まだ福岡市でもやっていない。チャレンジに敬意を表します」受講生からは、「今まで考えなかったこと、気づかなかったことを多く学び、手話通訳としての役目の重要性を知ることができました」と述べられました。(2 月 17 日)

終了後も気づきや疑問に関し地域サークル、仲間同士で話し合い、手話通訳者像を探り、さらなる学びを深められることを期待します。

この講座では、ろう講師として福岡市ろうあ協会会長 中村慎策さんと聴講師の 2 名で講座を担当し、模擬通訳場面では複数の聴者(手話を知らない人)、ろう者にご協力をいただき進行了しました。



あと一歩で賞

「私の大好きな秋・みいつけた」米倉葵さん



センター長賞



「コスモス(青空とコスモス)」
吉田康子さん

写真コンテスト(冬)発表



審査員特別賞



「秋の夕陽」宮本泰弘さん



最多得票賞



「サギソウ」吉田敬三さん

シリーズ (4)

山口相談医のひと言コメント

聴力検査について

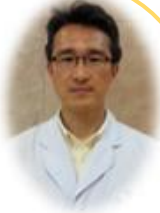
聞こえの検査と言いますと、ヘッドホンをつけて行う検査が思い浮かぶと思います。多くは「純音聴力検査」です。

「ブー、ブー」といった音が聞こえるかをチェックします。また、右左を分けて検査するために使う(雑)音(マスキング音と言いますと)を組み合わせて検査します。この検査は簡単に言うと、「物音」がどのくらい聞こえているかを調べるものです。難聴の方の中には、「物音は聞こえるけど、言葉が聞き取れない」とおっしゃる方も多いです。ここの「言葉」の聞き取り具合を調べるのが、「語音検査」です。こちらは、いくつかの言葉を聞いてもらい、どのくらい正確に聞き取れるかを調べます。「純音聴力検査」と「語音検査」の結果が補聴器調整の基本になります。そして、この2つの検査が問題なければ、よく「聞こえている」ことになります。

この2つの検査で問題なのが、半分くらい主観的な検査である、という点です。レントゲン検査や血液検査は、本人の意思と関係なく結果が出ます。ところが、聴力検査は、検査を受ける人の意識次第で検査結果を変えることができます。また、検査を受ける時のコンディションにも左右されます。場合によっては、検査する人の違いで結果が変わることもあります。

ですから、この検査には、検査を受ける方と、検査する人の協力が必要となります。一見、不具合の多い検査に見えますが、最も普及している検査方法です。

協力さえあれば、正確性は確保されます。



大災害に備える連続講演会

<熊本地震 ろうあ者相談員 中村慎策さん>

＝被災地で感じたこと＝

熊本地震は、昨年4月14日前震、16日に本震があった。私はもともと福岡市のろうあ者相談員をしていた経験から、東日本大震災で派遣されました。

熊本地震でもろうあ者相談員として被災後の6月から昨年2月までの9か月間駐在して各種相談にあたった。熊本では、情提センターが入っている施設が福祉避難所として指定された。手話で話ができて楽しかった、よかったと今でも同窓会を作られている。ろうあ者の半壊した家庭では、停電の中、車のヘッドライトを照らして救助されたこともあった。なかなかろうあ者の名簿を市町から出してもらえなかった。個人情報を出せませんということで、やっと1週間後に1市のみもらえた。また、「至急支援要者」を訪問し、さらに地域ごとに訪問を行いました。

相談は多岐にわたり、妻の長期入院、解雇問題、介護老人ホーム入所資格や詐欺事例等もあった。手話通訳者の派遣手続きや休日の急遽派遣等、社会資源の活用方策も課題として見えてきた。

質疑は、手話通訳者を増やす方策、手話のAI開発状況等があり、アンケートでは災害時の支援のあり方や聴覚障害者から直接話が聞けて良かった等の感想がありました。(2月21日)



お知らせ

要約筆記者養成講座(パソコンコース)開講

武雄会場で初めて開催します!!

4月28日(土)~9月29日(土)10:00~15:00



質疑では

Q. 小学校の難聴学校の子供は、中学校・高校ではどこに行っているのか。

A. 宮崎県では在学1人につき9時間のノートテイクがある。

Q. ろう学校は就業体験やマッチングを行っているのか。近年卒業生がいない。

A. 都城では、難聴生徒を把握しており、ろう学校以外にも本人の紹介をしている。福岡・熊本県では、障害種別ごとに指導主事がいる。卒業生は毎年100程度ビアガーデンパーティを行って、Uターンにつながるケースもある。

Q. 聴覚障害者間での悩み相談をやっているか。

A. SNS等でやり取りは多いが、突っ込んだ話は少ない。

次回は、5月以降、スタバ海老名店勤務の聴覚障害者、宇宙事業団「はやぶさ」担当の聴覚障害者をゲストに招くよう調整しています。

※お断り：講師のレジメは「障がい者」と「がい」はひらがなを使用されています。「みみよりなお知らせ」では、「障害者」とこれまで表記しておりますので、本文中の講師の表記を漢字に統一しております。

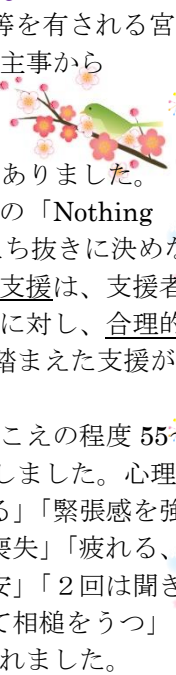
聴覚障害者雇用企業情報交換会(2月14日)

都城さくら聴覚特別支援学校12年の経験等を有される宮崎県教育庁特別支援教育室の井上秀和指导主事から

- ・聴覚障害者、聴覚障害への理解
- ・聴覚障害疑似体験
- ・聴覚障害者への配慮 について講演がありました。

まず、障害者権利条約署名から批准までの「Nothing about us without us=私たちのことを私たち抜きに決めないで」が合言葉であったこと。これまでの支援は、支援者の都合、支援者からみた支援であったことに対し、合理的配慮の提供とは当事者の申し出(ニーズ)を踏まえた支援が大きな違いであること。

ノイズを聞きながらのやり取りでは、きこえの程度55~65dB軽・中等度の伝音難聴の疑似体験をしました。心理面や内容面での感想として、「話を誤解する」「緊張感を強いられる」「聞こえない自分を嫌悪、自信喪失」「疲れる、イライラする」「悪口を言われていると不安」「2回は聞き返すが、3度目は諦める」「作り笑いをして相槌をうつ」「わからないことがわからない」と述べられました。



佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目1-12 (佐賀商工ビル4階)

TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705

メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp

ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

<開館時間>

9:30 ~ 18:00

<閉館日>

毎週月曜日、祝日